

佐久市埋蔵文化財調査報告書第34集

NISI IPPON YANAGI

# 西一本柳遺跡 I

佐久市大字岩村田一本柳遺跡群西一本柳遺跡 I 調査報告書

1994. 3

長野県教育委員会  
長野県土地開発公社  
佐久市教育委員会



西一本柳遺跡 I H 3 号住居址出土の人面付土器 (1.5倍)

小川 忠博氏 撮影



西一本柳遺跡 I H 3 号住居址出土の人面付土器

小川 忠博氏 撮影

# 例 言

- 1 本書は、平成3年度および平成4年度に発掘調査を実施した長野県大字岩村田一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅰの発掘調査報告書である。整理作業・報告書刊行は、平成5年度に行った。
- 2 本調査は平成3年度の岩村田高等学校第2グラウンド造成工事、平成4年度の岩村田高校第2グラウンド器具庫等の建設に関わり、長野県土地開発公社から委託を受け、佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡の所在地  
佐久市大字岩村田字西一本柳2301他
- 4 調査期間および面積  
岩村田高校第2グラウンド  
平成3年7月24日～9月4日  
試掘調査——面積—2,100m<sup>2</sup>  
発掘調査——面積—150m<sup>2</sup>  
岩村田高校第2グラウンド器具庫  
平成4年6月5日～6月12日  
発掘調査——面積—約86m<sup>2</sup>  
整理調査  
平成3年12月2日～平成4年3月27日  
平成6年2月1日～3月25日
- 5 挿図の方位は、真北を指す。
- 6 本書掲載図の作成は、荒井ふみ、小林立枝、小林よしみ、成沢富子、花里香代子、堀籠みさと、柳沢豊志子が担当し、執筆・編集は林幸彦が行った。
- 7 本書および関係資料等は、佐久市教育委員会で保管している。

# 凡 例

1 各遺構の略号は次の通りである。

住居址——H 土坑——D 掘立柱建物址——F 溝状遺構——M

2 遺構の名称は、平成3年度・4年度調査とも通し番号を付した。なお、試掘調査で平面プランの確認に終わった遺構も通し番号としたが、あくまでも仮称である。

3 住居址の縮尺は1/80、掘立柱建物址・溝状遺構は1/100、土坑は1/60である。

4 遺物の実測図・拓影図は1/4 を基本とした。他はスケール上に記した。

5 土器実測図において使用したスクリントーンは、点が密なものは内面黒色処理の土器を、点が疎なものは赤色塗彩を示している。石器実測図の点は使用痕の範囲を示す。

# 目 次

## 巻頭図版

例 言

凡 例

目 次

## I 調査の概要

- |              |   |
|--------------|---|
| 1 調査の経緯と経過   | 1 |
| 2 調査の体制      | 2 |
| 3 遺跡の位置と周辺遺跡 | 2 |

## II 遺構と遺物

- |           |    |                      |    |
|-----------|----|----------------------|----|
| 1 H 1号住居址 | 4  | 7 F 1号掘立柱建物址         | 15 |
| 2 H 2号住居址 | 7  | 8 F 2号掘立柱建物址         | 16 |
| 3 H 3号住居址 | 10 | 9 F 3号掘立柱建物址         | 17 |
| 4 H 4号住居址 | 13 | 10 M 1号溝状遺構          | 17 |
| 5 H 5号住居址 | 14 | 11 西一本柳遺跡 I 試掘調査出土遺物 | 18 |
| 6 D 1号土坑  | 14 |                      |    |

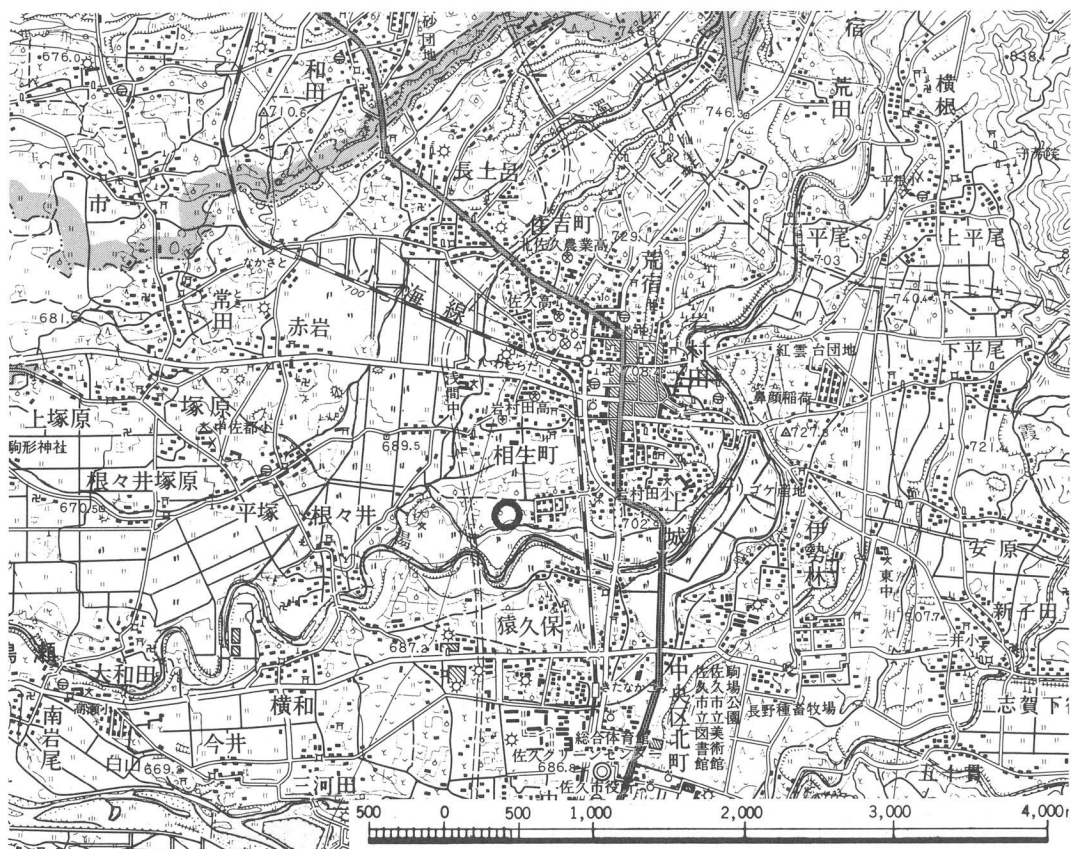
図版

# I 調査の概要

## 1 調査の経緯と経過

西一本柳遺跡は、一本柳遺跡群のほぼ中央から西半部をいう。東半部を東一本柳遺跡中央北部を北一本柳遺跡と呼称している。佐久市岩村田市街地南部の上の城から西へ約1kmに渡って細長い台地がある。湯川の右岸に位置し、標高685~702mを測る。この台地上では昭和42年度の東一本柳遺跡をはじめとして多くの遺跡が緊急発掘調査されており、弥生時代中期から平安時代の集落が検出されている。遺跡群は、東部の上の城遺跡群、小海線用地から常木用水までを一本柳遺跡群、常木用水から西部を北西ノ久保遺跡というように便宜的に個々の名称が冠されている。

今回、岩村田高校のグラウンドが手狭になったため、第2グラウンドが造成されることになった。協議の結果1mの盛り土で造成される部分については、試掘調査を行いその概要を把握し、バックネットおよび器具庫・部室で破壊される部分については、緊急発掘調査を実施することとなった。調査は工事を担当する長野県土地開発公社から委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。



第1図 西一本柳遺跡I位置図(1:50,000)

## 2 調査体制

◎調査受託者 教育長 大井季夫

◎事務局（平成5年度）

教 育 次 長 奥原秀雄

埋蔵文化財課長 上原正秀 管 理 係 長 小林泰子

埋蔵文化財係長 草間芳行

埋蔵文化財係 高村博文 林 幸彦 三石宗一 須藤隆司 小林真寿

羽毛田卓也 富沢一明 上原 学

調査担当者 市村勝巳 金原 正 新海節夫 林 幸彦

調 査 主 任 佐々木宗昭 調査副主任 堺 益子

調 査 員 上原 希 遠藤しづか 江原富子 小田川 栄 金森治代 香山優子 桜井牧子

長岡喜代人 成沢富子 羽毛田香里 橋詰勝子 橋詰信子 花岡美津子

細萱ミスズ 堀籠 因 依田洋一 和久井義雄 渡辺久美子

岩村田高校生 安藤俊樹 岩下一宏 上原誠一 伊藤正朝 大須賀千尋 木内健一 木内ひろみ

北山浩一 黒沢武彦 黒沢みゆき 神津伸次 後藤隆行 小林 徹 小林久雄

小山 進 小山仁志 佐々木大輔 佐々木秀明 佐藤達也 渋川貴之 清水一郎

清水 哲 平 直樹 土屋俊行 土屋友宏 戸谷 剛 中条泰勝 比田井昭永

三浦健明 宮下貴広 宮本雄一 柳沢 敦 由井克彦 由井 徹

野沢南高校生 重田栄治

白田高校生 小池貴子 小谷野桂子 桜井和典 柳沢浩司

## 3 遺跡の位置と周辺遺跡

西一本柳遺跡Ⅰは、一本柳遺跡群のほぼ中央に位置し標高694mを測る。佐久市岩村田市街地の南部から西に展開する湯川右岸の細長い約1kmの台地には、東から上の城遺跡群、一本柳遺跡群、北西ノ久保遺跡が知られている。これらの遺跡群の間には、明確に遺跡同士を区切る自然地形は見あたらない。

市街地に近いため以前から宅地化が進んでいる。このため、昭和43年度の佐久市開発公社による宅地造成に伴い古墳時代後期住居址5軒が緊急発掘調査された東一本柳遺跡をはじめとして、上の城遺跡群上の城遺跡、上の城遺跡群西八日町遺跡、東一本柳古墳、また一本柳遺跡群の北一本柳遺跡、西一本柳遺跡1、西一本柳遺跡Ⅰ、西一本柳遺跡Ⅱ、さらに北西ノ久保遺跡1次・2次・3次・4次などの発掘調査がなされ、多くの弥生時代中期から平安時代の集落や弥生時代～平

安時代さらに中世・近世の墳墓等が検出されている。

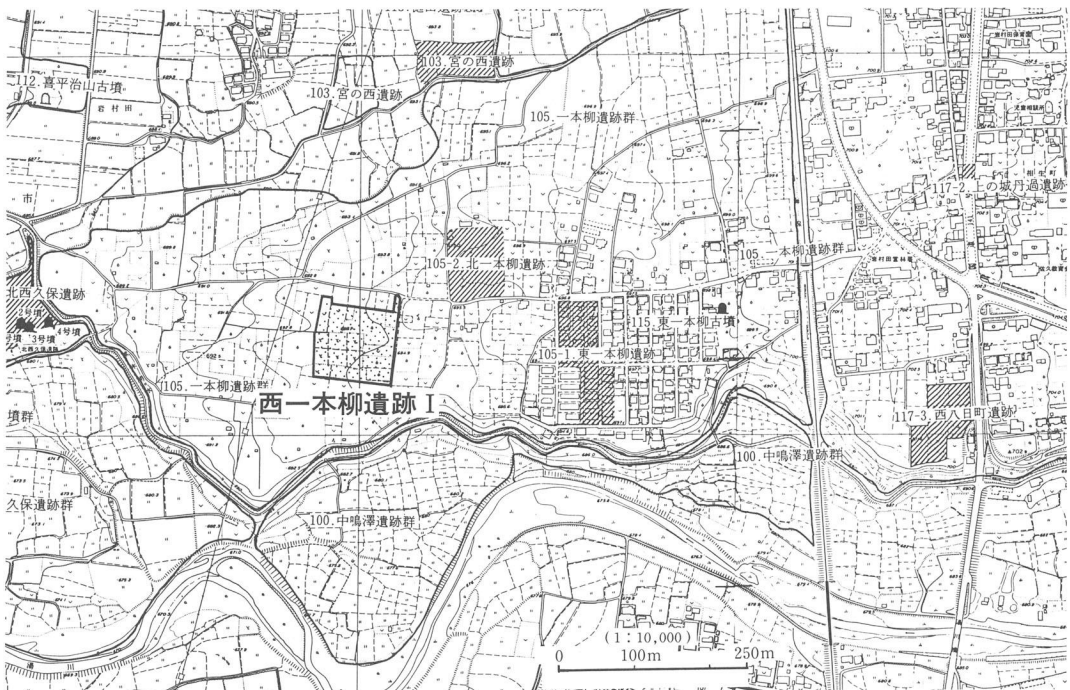
上の城遺跡からは古墳時代後期から平安時代の住居址47軒と倉庫とみられる掘立柱建物址1棟等、西八日町遺跡からは弥生時代中期から平安時代の住居址147棟などが調査されている。

東一本柳古墳からは、轡をはじめとした銅地金張りの杏葉・辻金具などの馬具が出土している。北一本柳遺跡では弥生時代後期住居址7軒・平安時代住居址10軒・土坑51基が調査され、中一本柳遺跡の試掘調査では弥生時代中期～平安時代の住居址33軒等が確認されている。

西一本柳遺跡IIの調査対象地は、台地を南北に横断する形となり、やはり弥生時代中期・後期から古墳時代中期・後期、平安時代の住居址 軒等が調査された。遺構は北側に薄く中央から南側にかけて濃密に存在することが判明した。

さらに、継続中であるが西一本柳遺跡IIの西側に隣接した常木用水までの地点が、西一本柳遺跡1として試掘調査が実施されていて、同様に弥生時代中期・後期から古墳時代中期・後期、平安時代の住居址が約110軒確認されている。

北西ノ久保遺跡第1次～4次の調査では、台地上から弥生時代中期・後期、古墳時代中期、平安時代の集落や弥生時代方形周溝墓・木棺墓群、古墳時代中期古墳群・埴輪大量出土の円墳を含む後期古墳群、近世土坑墓群が調査され、台地から続く斜面からは中世の五輪塔等の石塔婆群が検出されている。



第2図 西一本柳遺跡Iと周辺遺跡 (1:15,000)



## II 遺構と遺物

平成3年度の岩村田高校第2グラウンド造成に関する調査では、バックネット建設部分から古墳時代後期の住居址2軒、掘立柱建物址3棟が調査された。また、盛り土される部分の概要を知るため試掘調査トレンチ内の弥生時代中期のH3号住居址とD1号土坑も部分的な掘り下げを行った。

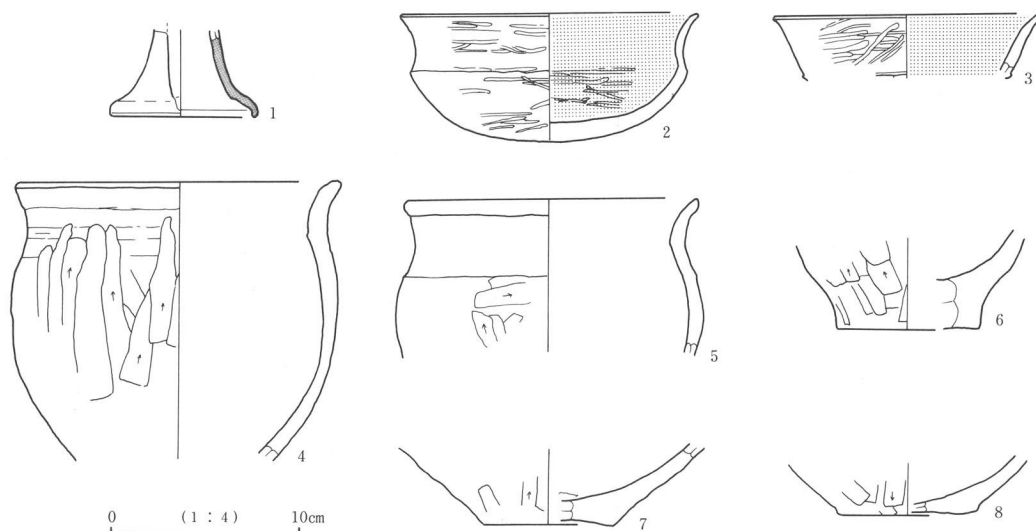
掘調査は10,108㎡の対象地に南北に6本、東西にも6本の幅約2mトレンチを入れ行った。その結果、遺物は弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良平安時代、中世それぞれの土器・石器が多量に出土した。さらに、時期の決定は難しいが弥生時代から平安時代の住居址70軒以上、掘立柱建物址、土坑、溝状遺構が多数確認された。

平成4年度の岩村田高校第2グラウンドに付属する器具庫・部室建設予定地内の調査では、弥生時代中期の住居址2棟と溝状遺構1条を検出した。

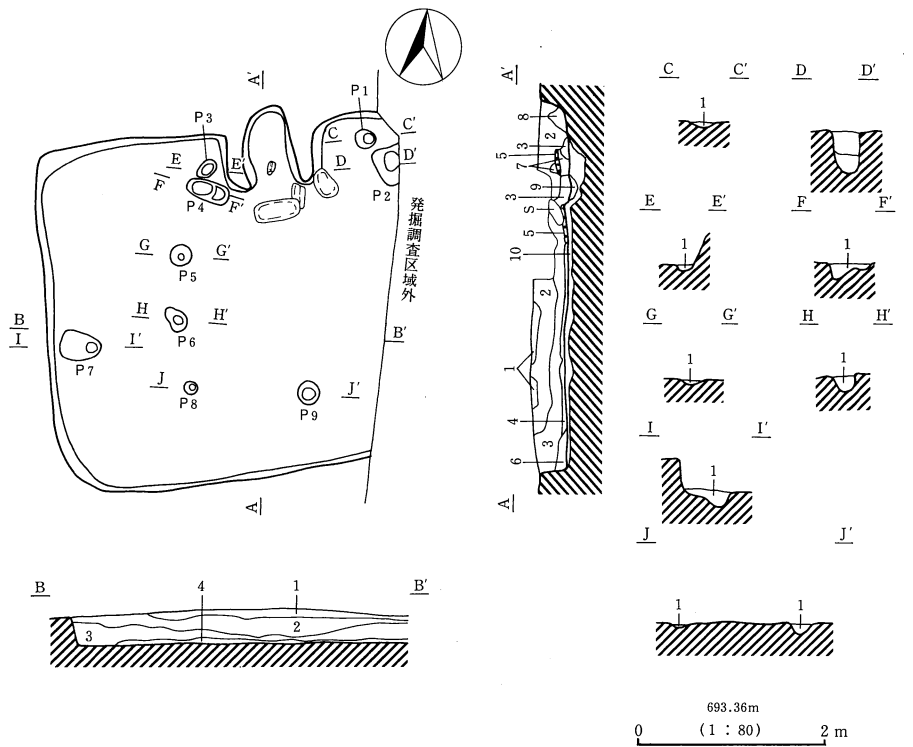
### 1 H1号住居址

調査区の北側バックネットの工事がおよぶ範囲から検出された。東側は農道にかかるため未調査となった。

南北3.7m東西は検出された長さで3.9m推定4.5mほどになると思われ、隅丸の主軸が短い長方形の平面形態とみられる。壁残高は、23~33cmを、南北軸方向はN-13°-Wを測る。

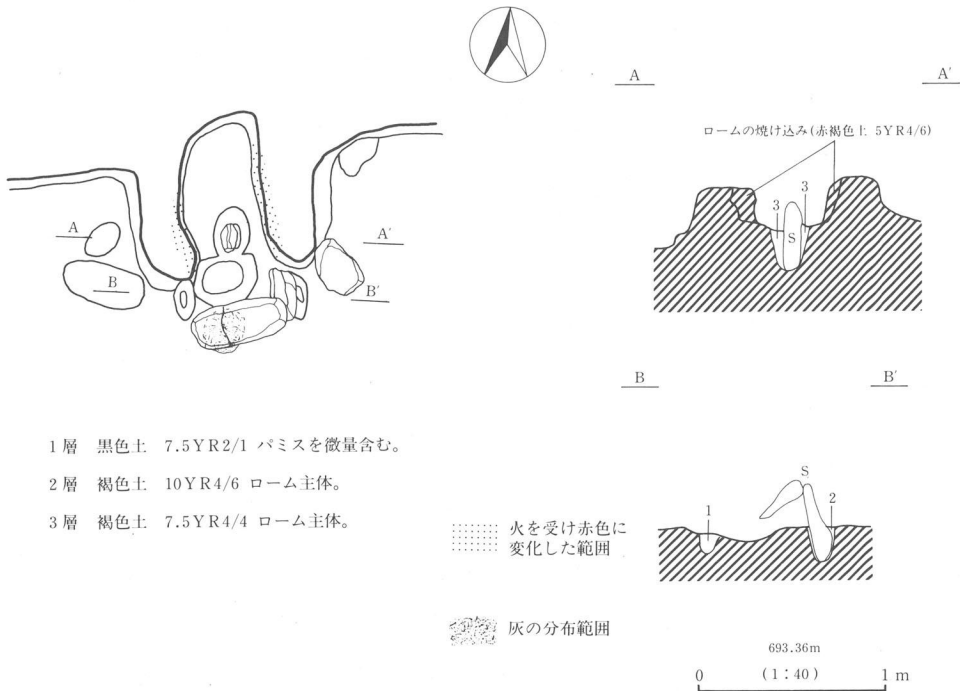


第3図 H1号住居址出土土器実測図



- 1層 黒褐色土 7.5YR3/2 粘性弱。ローム細粒微量含む。
- 2層 黒褐色土 10YR2/3 ロームをブロック状に20~30%、軽石粒を点々と含む。
- 3層 黄褐色土 10YR5/6 2層の黒褐色土(炭化物混)をブロック状に40~50%、軽石粒含む。
- 4層 暗褐色土 7.5YR3/3 軽石粒を微量含む。
- 5層 焼土。
- 6層 ローム、黒褐色土、炭が混在。灰を多量に含む。
- 7層 暗褐色土 5YR3/3 焼土5YR5/8炭粒(1cm)を含む。
- 8層 3層に焼土粒(1cm)を点々と30%含む。
- 9層 3層に焼土・炭粒を多量に含む。
- 10層 暗褐色土 10YR3/3 貼り床、パミス(0.5~2cm)ローム粒子を多量に含む。
- P1 1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子を少量含む。 P5 黒褐色土 軽石粒がとぶ。
- P2 1層 黒褐色土 10YR2/2 パミス(極小)を微量含む。 P6 黒褐色土 軽石粒がとぶ。
- 2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒子を少量含む。 P7 黒褐色土 黒色土(炭化物混)ローム粒子含む。
- P3 1層 黒褐色土 軽石粒・黄白色土(にぶい橙色土7.5YR6/4)を含む。 P8 黒褐色土 ローム粒・軽石粒・炭粒がとぶ。
- P4 1層 黒褐色土 P9 褐色土 黄褐色土ブロックを含む。炭粒がとぶ。

第4図 H1号住居址実測図



第5図 H1号住居址カマド実測図

床面は全体にバリバリに硬く敲きしめられて平坦であった。床面下の掘り方は、4～10cmの深さで貼り床はローム粒子を多量に含む暗褐色土を主に用いていた。

覆土は大きく4層に分層できた。第6層は南壁付近のみにみられた。第3層の上面で第2層中には第2層の黒褐色土とロームおよび多量の焼土が混じる土坑状の堆積がみられ、第3図4の土師器甕が倒立した状態でみられた。さらに、この甕に接合する他の破片もこの土坑状の堆積下部にみられた灰層の中から出土した。第2・3層にはブロック状のロームが多量に含まれ、先述の状況ともあわせ人為的な堆積と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央部に設置され、袖の基部と支脚石が残るだけで、他は崩れていた。人為的に形成された覆土第3層が、カマド火床面まで堆積しており覆土第3層の形成時にはすでにカマドは使用時の姿を留めていないことになる。カマドは、地山を掘り残し袖基部としている。袖先端部東側には芯としていた安山岩礫が残っている。西側の小ピットは礫を抜き去った痕跡であろう。東側の床面にみられた安山岩礫がそれであろうか。天井石が東側の袖石に乗る状態で検出された。火床付近は、あらかじめ床面の掘り方よりも深く掘られている。

図示した出土遺物には、須恵器高坏、土師器坏・甕・小形甕がある。

第3図1は、須恵器高坏で3層内から出土した。脚部片で透かしがうかがえる。この高坏片とは別個体の須恵器高坏とみられる小片もある。須恵器は他に坏の小片1点のみが出土している。2・3は土師器坏でともに外稜を持ち、内面黒色処理される。この他に5個体ほどの坏片がある。2はカマド東側の床面上、3は覆土第2層内の出土。4・5は土師器小形甕で、短い胴と短く緩く外反する口縁部を持つ。胴部はヘラケズリされる。4は覆土第2層内の土坑状堆積土内からの出土で、倒立した破片と灰内に横たわった破片、さらに、カマド付近の第2層出土片とが接合した。5は第2層と3層内からの破片が接合した。6も土師器小形甕の底部で覆土第3層出土、7・8は土師器甕で7が第2層、8が第3層からの出土。土師器甕は、この他に分厚い長胴甕や球胴を呈する甕の小片がある。

これらの土器は古墳時代後期の様相を示し、本住居址の帰属時期としたい。

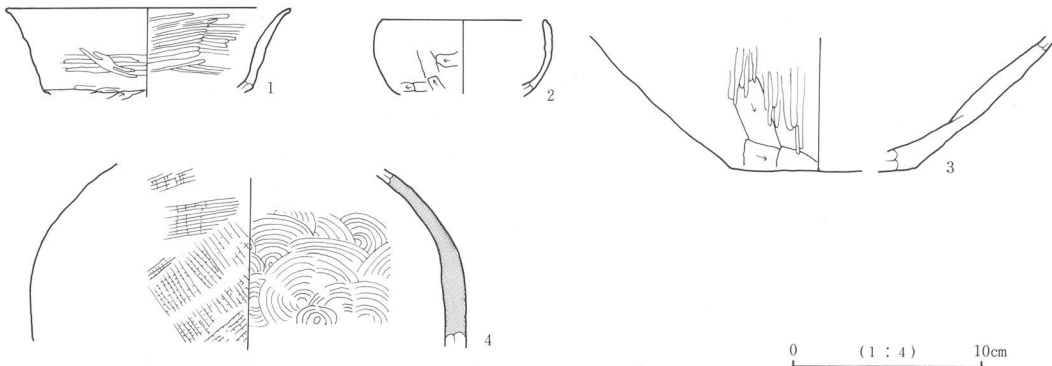
## 2 H2号住居址

本住居址は、H1号住居址の西側に近接して検出された。南北3.6m東西4.0mのやや東西に長い隅丸方形を呈する。壁残高は53~56cm、南北軸方向N-10°-Wを測る。床面は支柱穴で囲まれる方形内がもっとも堅緻であった。

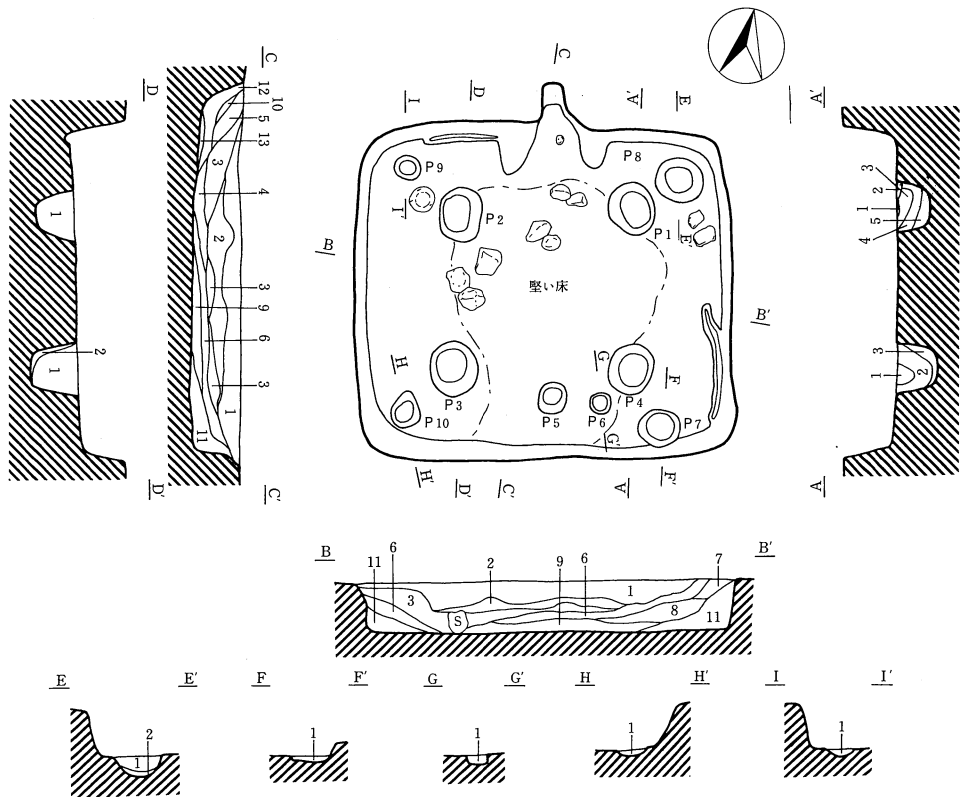
ピットは10個確認され、支柱穴のP1~P4が柱穴間約1.8mの方形に配されていた。平面形態は径40~50cmの円形を基調とし、深さはそれぞれ40・43・44・42cmを測る。さらに、径30~50cm深さ5~20cmのピットが、この4個の柱穴の外側壁際に4個検出された。支柱補助柱の存在が考えられようか。南壁際には2個のピットがあり深さ13・22cmで、位置的に入り口に関する施設であろうか。

壁溝がカマド西側の北壁下と東壁の一部にみられた。幅15cm深さ4~7cmを測る。

カマドは、北壁中央に設置されていた。火床と袖部の一部分が残るだけで崩れていた。構築



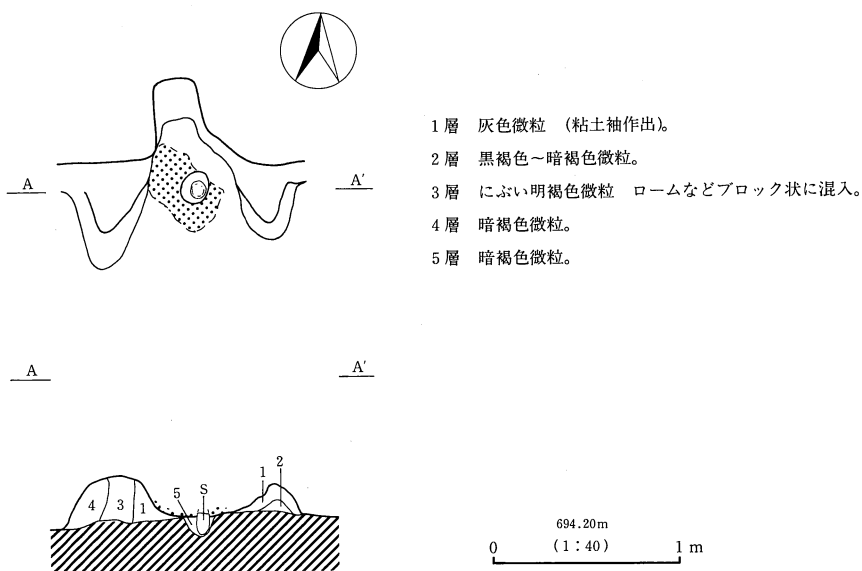
第6図 H2号住居址出土土器実測図



- |  |                    |   |            |
|--|--------------------|---|------------|
| P8 1層 にごい明褐色土                          | P7 1層 黒褐色土<br>暗褐色土 | P10 1層 暗褐色土<br>暗褐色土                           | P9 1層 暗褐色土 |
| 2層 黒褐色土                                |                    |   |            |
| 1層 暗褐色土 軽石粒10%、ロームブロック、<br>黒褐色ブロックを含む。 |                    | P1 1層 黒褐色土・暗褐色土                               |            |
| 2層 黒褐色土 明褐色ブロックを含む。                    |                    | 2層 暗褐色土・黒褐色土・暗褐色土ブロック状に含む。                    |            |
| 3層 明褐色土 緻密。                            |                    | 3層 暗褐色土                                       |            |
| 4層 暗褐色土 灰色微粒ブロックを含む。                   |                    | 4層 明褐色土 炭化材を含む。                               |            |
| 5層 灰色土 ローム粒子、暗褐色土を含む。                  |                    | 5層 黒褐色土 ローム明褐色を縞状に含む。                         |            |
| 6層 暗褐色土・黒褐色土 軽石粒微量含む。                  |                    | P2 1層 にごい明褐色土 暗褐色土、灰色土をブロック状に炭化<br>材、地山灰色を含む。 |            |
| 7層 暗褐色土                                |                    | P3 1層 にごい明褐色土 黒褐色土、暗褐色土、地山灰色土を含<br>む。         |            |
| 8層 明黄褐色土 軽石粒、暗褐色ブロックを含む。               |                    | 2層 黒褐色土                                       |            |
| 9層 明黄褐色土                               |                    | P4 1層 にごい明褐色土                                 |            |
| 10層 暗褐色土 ロームブロック、灰色微粒を含む。              |                    | 2層 黒褐色土・暗褐色土 明褐色土ブロック状に炭化材を含<br>む。            |            |
| 11層 暗褐色土 軽石粒10%含む。                     |                    | 3層 明褐色土                                       |            |
| 12層 暗褐色土                               |                    |   |            |
| 13層 焼土。                                |                    |   |            |

694.20m  
0 (1 : 80) 2 m

第7図 H2号住居址実測図



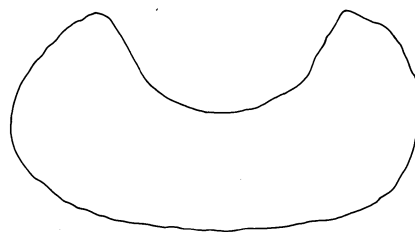
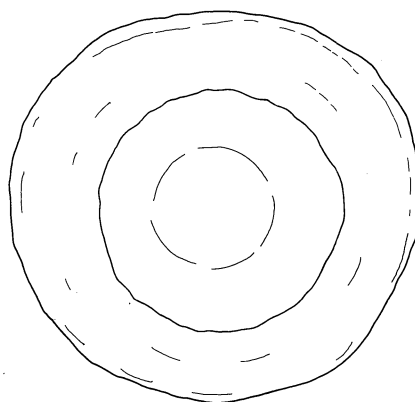
第8図 H2号住居址カマド実測図

材とみられる8個の安山岩が、カマド焼き口部から床面中央にかけて散乱していた。また、多量の粘土もカマド前面の覆土中にみられ、カマドは安山岩を芯として粘土で覆い構築されていたと想定される。僅かに残袖部の基部は、灰色の粘土・暗褐色土・明褐色土でつくられていた。暗褐色土で固定された上部を欠損する支脚石が火床中央に残されていた。両袖に芯とした礫の痕跡の浅い窪みが認められた。

出土遺物には、須恵器甕、土師器坏・甕・甗、石搗鉢と数片の弥生時代後期の土器片がある。

第6図1の土師器坏は外稜を持つ、覆土第2層出土。2は土師器碗で内面丁寧なナデ、外面ヘラケズリされる。3は土師器甕、4は須恵器甕いづれも東側の床面上出土。第9図は多孔質安山岩の石搗鉢で幅26.9cm厚さ14.5cmを測る。北西コーナー床面出土、

出土遺物は、少ないものの古墳時代後期に比定されよう。



0 (1:5) 10cm

第9図 H2号住居址出土石器実測図

### 3 H 3 号住居址

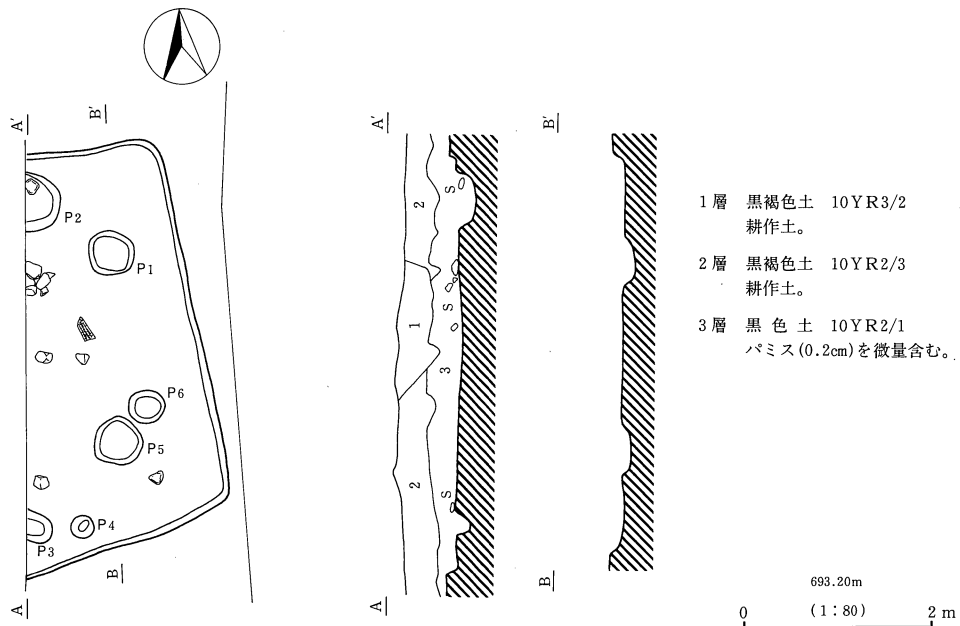
試掘トレンチの精査中本住居址覆土上面から第11図の頸部以下を欠損した人面土器が出土した。

人面土器や土偶形容器の出土は、実際に骨壺として使用するものや、墓壇の中に副葬品として添え置かれている例がほとんどである。このため、人面土器の出土状況を把握するため、トレンチ内に確認された範囲で掘り下げを行った。しかしながら、頸部以下に該当する土器片を検出することはできなかった。

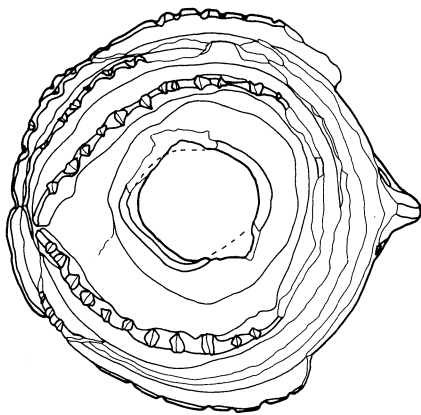
本住居址は、調査区内の北西地点に位置する。掘り下げを実施したのは住居址東側半分で、東壁は4.1mを測る。隣接する同時期の北西ノ久保遺跡で検出された住居址例から、本址の平面形態は4m前後の隅丸方形が推定できる。南北軸方向はN-10°-Wを指し、壁残高は5~10cmを測る。P2とP5が位置と形状から支柱穴かとおもわれるが、深さ10cmと浅い。他に4個のピットがみられるが、南壁際のP3・P4は入り口施設に関したものであろうか。床面は全体に軟弱であった。P2の西側床面に接して5個の安山岩と1個の鉄平石が置かれ、下部に掘りこみはみられない。

出土遺物は人面付土器の他に、弥生時代中期後半の壺・甕・無頸壺、石質閃緑岩の磨製石斧再加工品、チャートの打製有茎石鏃がある。

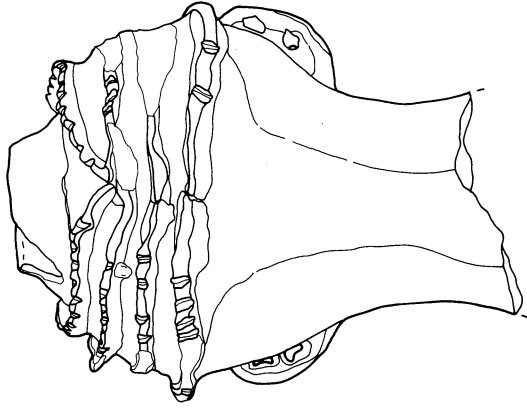
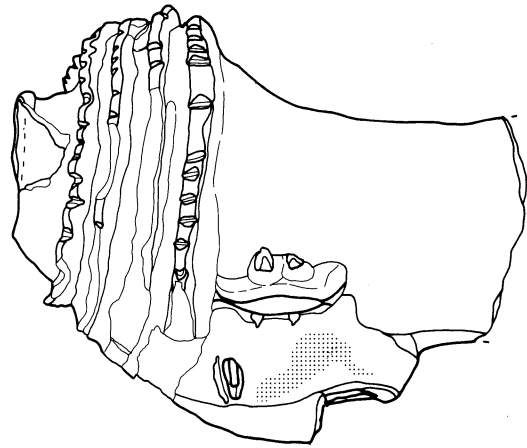
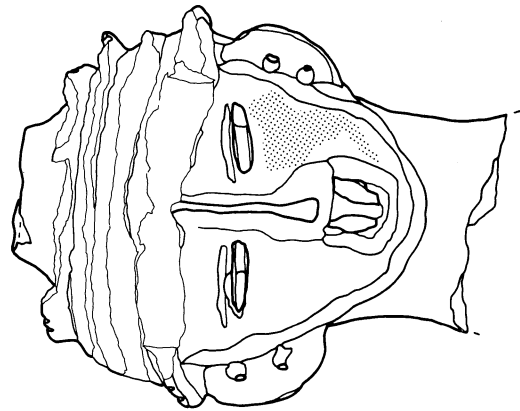
人面付土器の残存長は12cmを測る。下部へ続く頸部の角度や調整の特徴は、欠損する下部位は壺の胴部以下が強く想定される。頭部および顔面は、精緻であらゆる角度からも立体的に表現されている。そして、さいたる特徴は、目・口が削り貫いてあらわされていることである。細長い目



第10図 H 3 号住居址実測図



0 (1 : 2) 6 cm



第11图 H 3 号住居址出土人面土器实测图

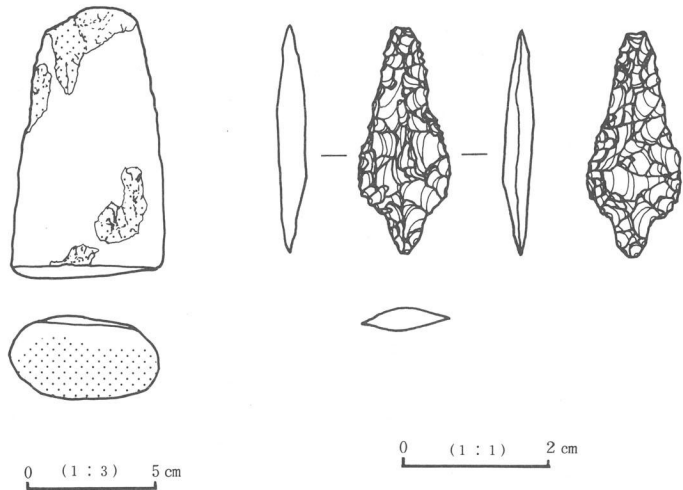


の上の沈線は、二重脥あるいは眉毛を描いたのであろうか。貼付された鼻は高く鼻筋が通る。口は中央に削り貫きを残し歯を表現したものか。量感のある貼付された耳は、2個の小孔があげられている。頭部には4条の上端にヘラによる刻み目を持つ細い紐状のものが巻かれている後頭部の中央で左右から水平に伸びた先端が僅かに垂れて合わさる。最上段の先端は僅かに隙間をみせている。佐久町館遺跡や丸子町腰越遺跡の土偶形容器頭部にみられる幅広の鉢巻き状のものとは、明らかに異なる表現のしかたであるが、土偶形容器にみられる結髪であろうか。頭頂部には、口径3cmを測るこの土器の口縁部が直立に近く立ち上がる。また中部高地に多く分布する土偶形容器や東北南部・北関東に多い人面付土器に沈線・刺突による皺や入れ墨は、本例にはない。左頬から下顎にかけてわずかに赤色の塗彩がうかがえる。弥生時代中期初～後期前半の人面付土器に粘土紐を貼り付けたり、ヘラで刻んで表現された目・口・鼻に比べると実に写実性が際だっている。

土偶形容器と人面付土器とは所属時期・分布地域・その性格が共通する点が著しい。また、人面付土器は再葬墓が分布しない地域や、方形周溝墓が出現する時期やさらに後期にもみられることがあり、再葬墓だけでなく住居からも発見されている。

頭部の刻み目・頸部の調整胎土・焼成は、本地域の特徴をよく示すものである。

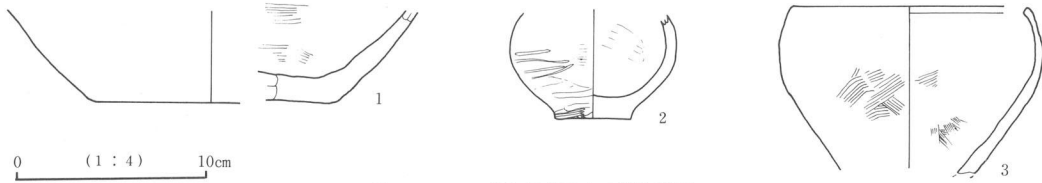
以上の本址の出土遺物は、弥生時代中期後半に位置づけられる。



第12図 H 3号住居址出土石器実測図



第13図 H 3号住居址出土石器拓影図



第14図 H3号住居址出土土器実測図

## 4 H4号住居址

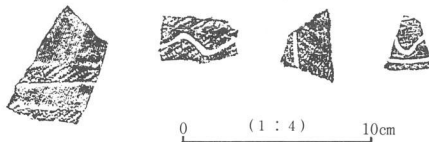
本住居址は、調査区の北東隅から検出された。M1号溝状遺構に一部破壊され、東側は調査区外へ伸びている。

南壁2.2m西壁2.8mが調査された。南西コーナーは隅丸を呈する。壁残高は14~17cm、南北軸方向はNを指す。

床面は堅緻であったが、遺構自体の残りかたが浅いためところどころ敲き床がはがれている。床面下の掘り方は認められない。ピットは6個確認できたが、深さ68cmのP1は支柱穴になろう。

幅12~20cm深さ4~8cmの壁高が各壁直下をめぐるている。

出土遺物は少なく第16図に示したように、弥生時代中期後半の壺の小片が僅かに出土した。



第16図 H4号住居址出土土器拓影図

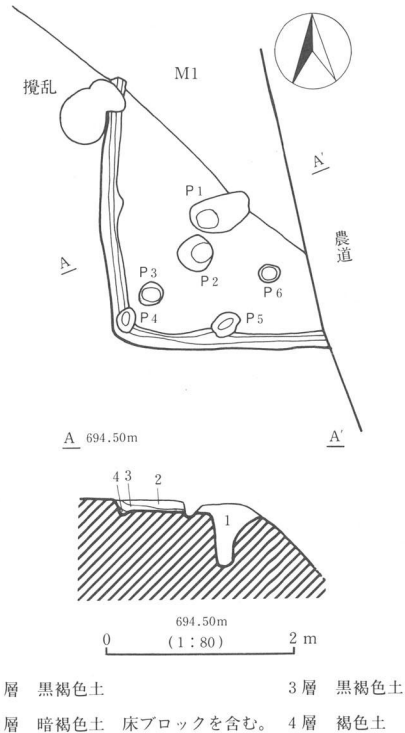
## 5 H5号住居址

本住居址はH4号住居址と同様に、調査区の北東隅から検出された。M1号溝状遺構に大半を破壊されていた。

隅丸の北東コーナーと北壁0.7m東壁1.1mだけ確認できた。壁残高は28cm内外を測る。床面は、平坦で堅緻なた



第17図 H5号住居址実測図



第15図 H4号住居址実測図

め明確に検出できた。

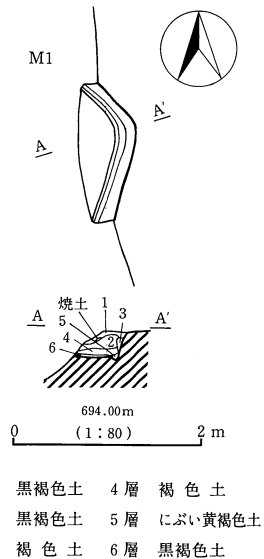
壁溝が確認でき、幅は12cm～18cm、深さは3cmを測る。

出土遺物は少ない。弥生時代中期後半の壺・甕、後期の甕小片がみられる。

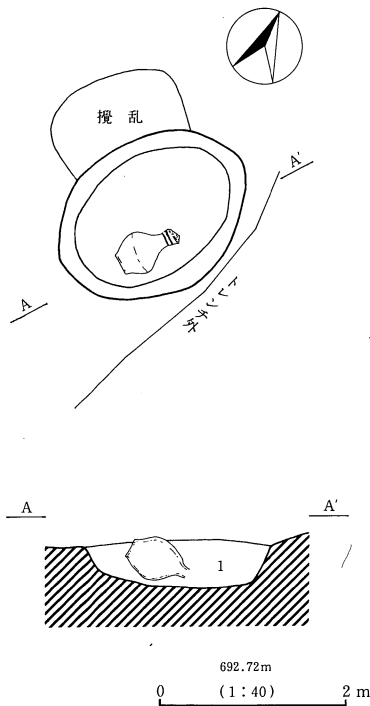
## 6 D1号土坑

本址は調査区のほぼ中央で検出した。数多い土坑の性格等把握のため掘り下げを行った。

平面形態は楕円形を呈し、長軸110cm短軸84cm深さ26cmを測る。長軸方向は、N-36°-Eを指す。やや南寄りの位置から口縁部を斜め下にした第20図の弥生時代中期後半の壺が検出された。覆土は黒色土1層で、骨粉等はみられなかった。

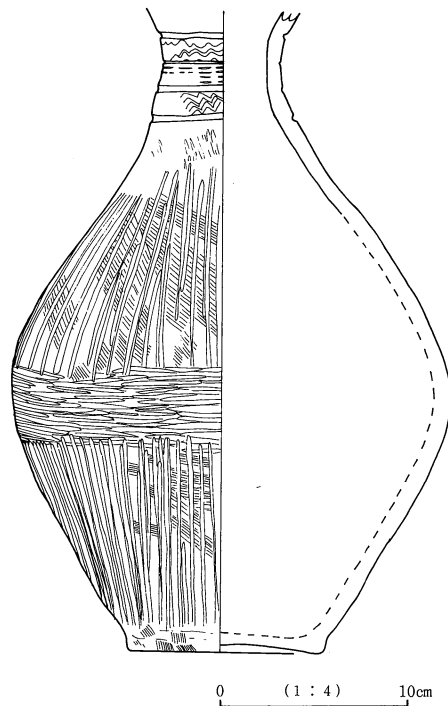


第18図 H5号住居址実測図



1層 黒色土 10YR2/1粒子細かく粘性弱パミス(0.5cm)を微量、パミス(0.3cm)を少量含む。

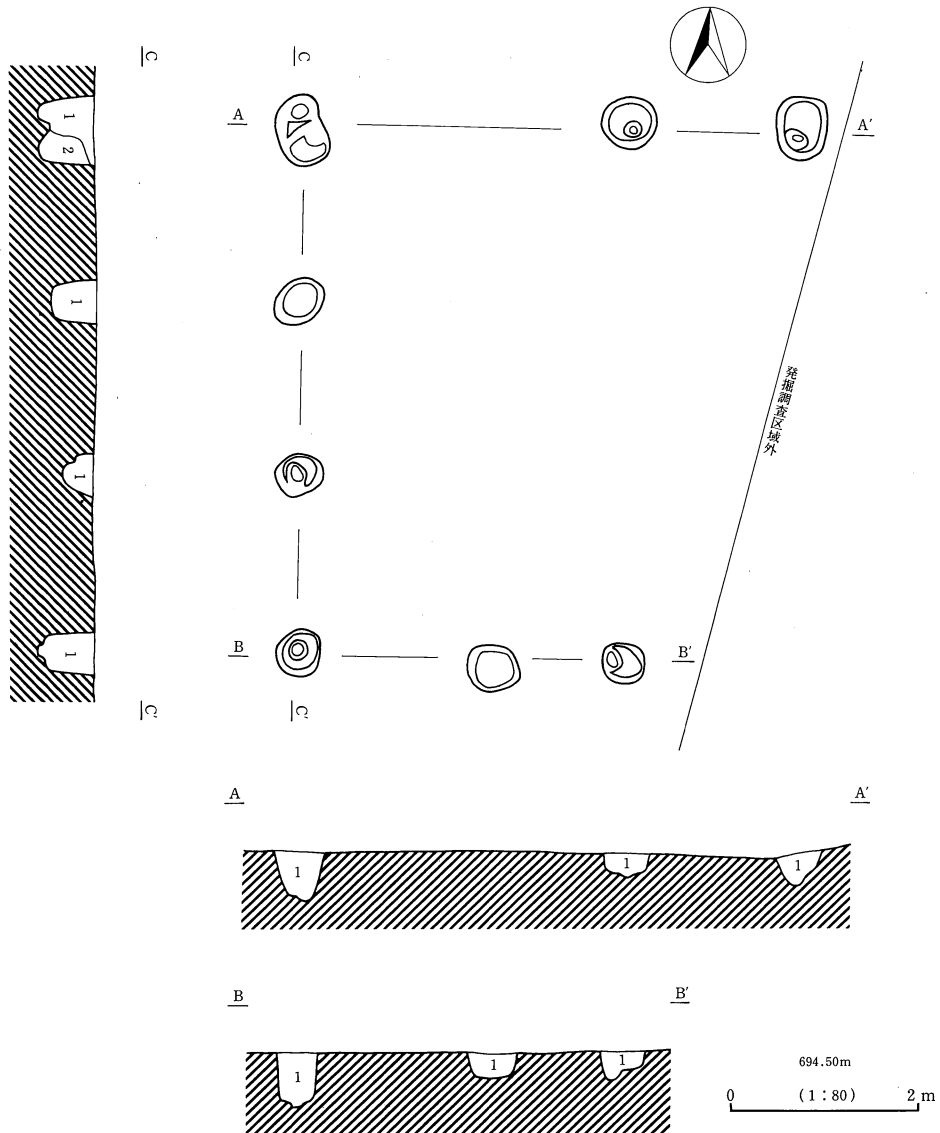
第19図 D1号土坑実測図



第20図 D1号土坑出土土器実測図

## 7 F 1号掘立柱建物址

調査区北東隅から検出された。遺構の一部は調査区外の東側に続く。建物の平面形態は桁行3間以上梁間3間で、柱の配置は側柱式である。長軸（桁行）の方向はN-83° - Eを指す。平面規模は桁行5.9m以上・梁間5.6mを測り、柱間寸法は桁行1.3m~3.3mでばらつきが大きい。梁



- 1層 暗褐色土 軽石流ブロック少量含む。細砂土壌。しまりなし。
- 2層 軽石流ブロック主体土。

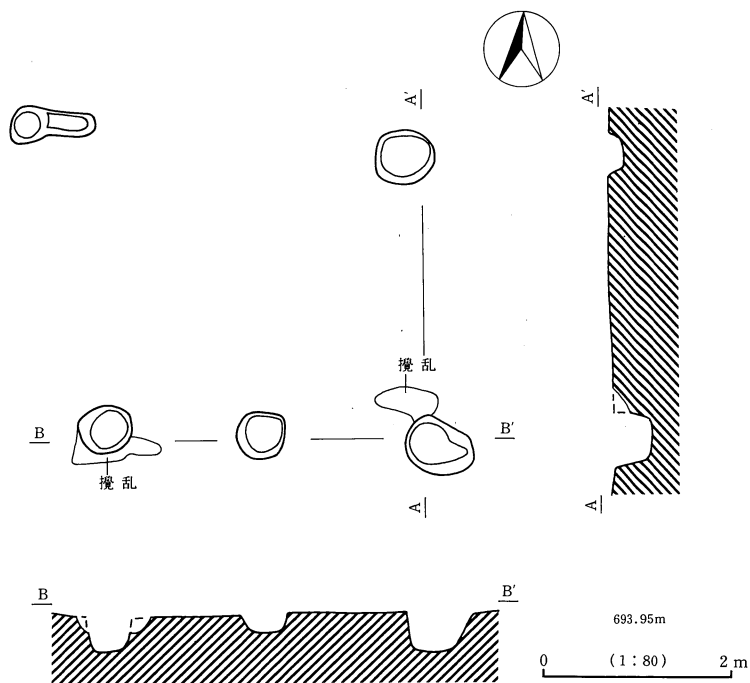
第21図 F 1号掘立柱建物址

間は2m前後で各柱穴間のばらつきが小さい。各柱穴の平面形態は円形が基調で直径40~60cm・深さ31cm~61cmを測り、柱痕部分が一段低い。

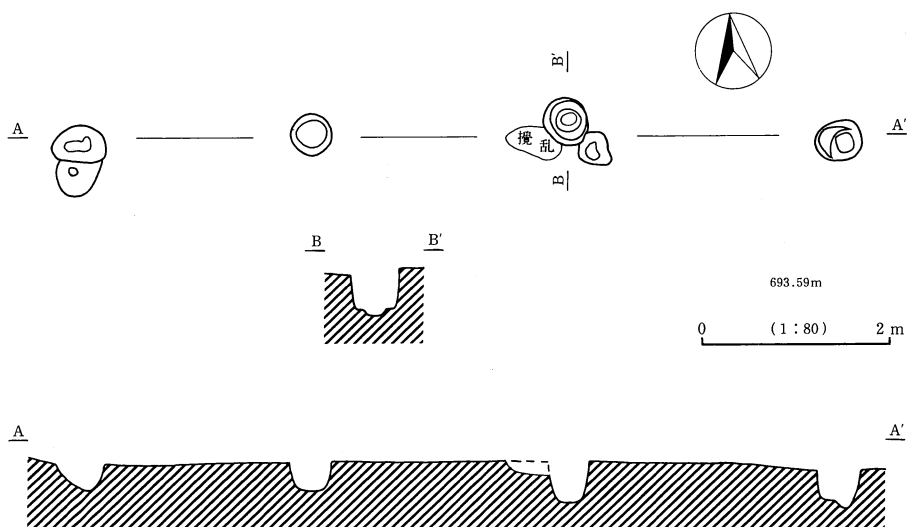
## 8 F 2号掘立柱建物址

本址はH 2号住居址の北側、F 1号掘立柱建物址の西側に近接して検出された。

建物の平面形態は桁行2間・梁間1間で、柱の配置は側柱式である。長軸(桁行)の方向はN-87°-Eを指す。平面規模は桁行3.6m 梁間3.2mを測り、柱間寸法は南桁行が1.8mを測る。



第22図 F 2号掘立柱建物址実測図



第23図 F 3号掘立柱建物址実測図

北桁行は北西のピットが西にずれているため形態は歪んでいる。各柱穴の平面形態は、楕円形・円形とがある。直径は50cm前後、深さも17cm～41cmとばらついている。

## 9 F 3号掘立柱建物址

本址の大半は北側の調査区外にある。建物の南側部分だけの検出であった。検出部分がおそらく桁行であろう。平面規模は8.2mを測る大規模なものである。柱間寸法は2.6m・2.7m・2.9mを測りばらつきが少ない。各柱穴の平面形態は円形を基調とし、直径40cm～50cmを測る。柱痕部分が一低くなるものもみられる。

## 10 M1号溝状遺構

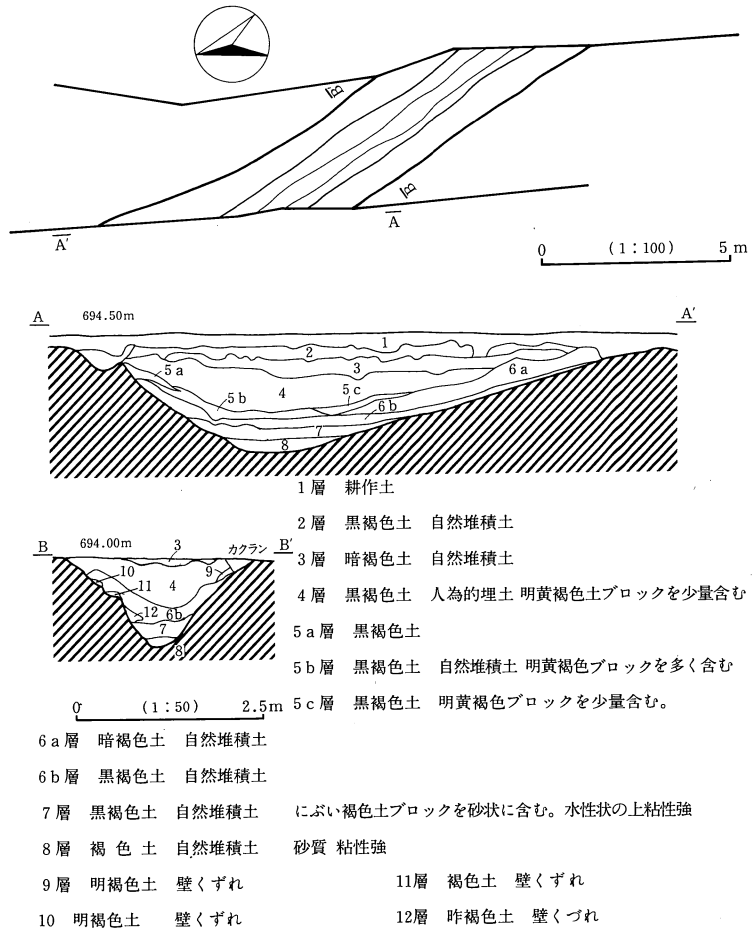
本址は、調査区の北端から検出された。

弥生時代中期後半とみられる2軒の住居址を破壊し、北西と南西方向に伸びている。

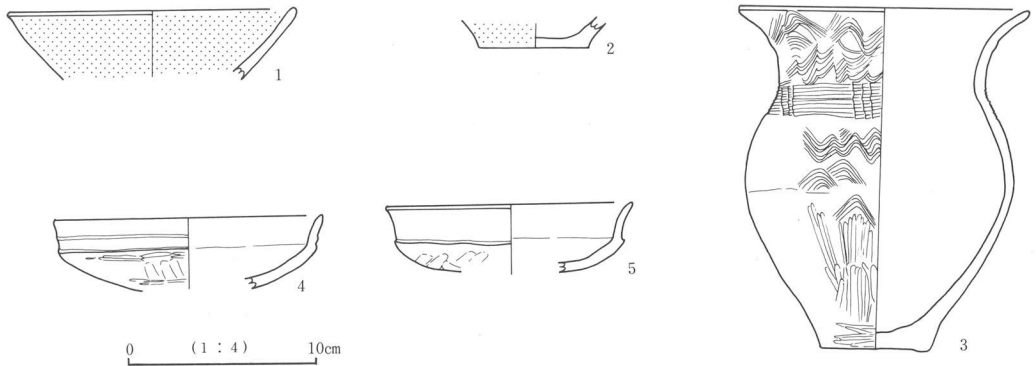
幅2.5m深さ1.04m、底面の幅0.24m～0.5mを測る。

断面形態は、「V」字形をしている。

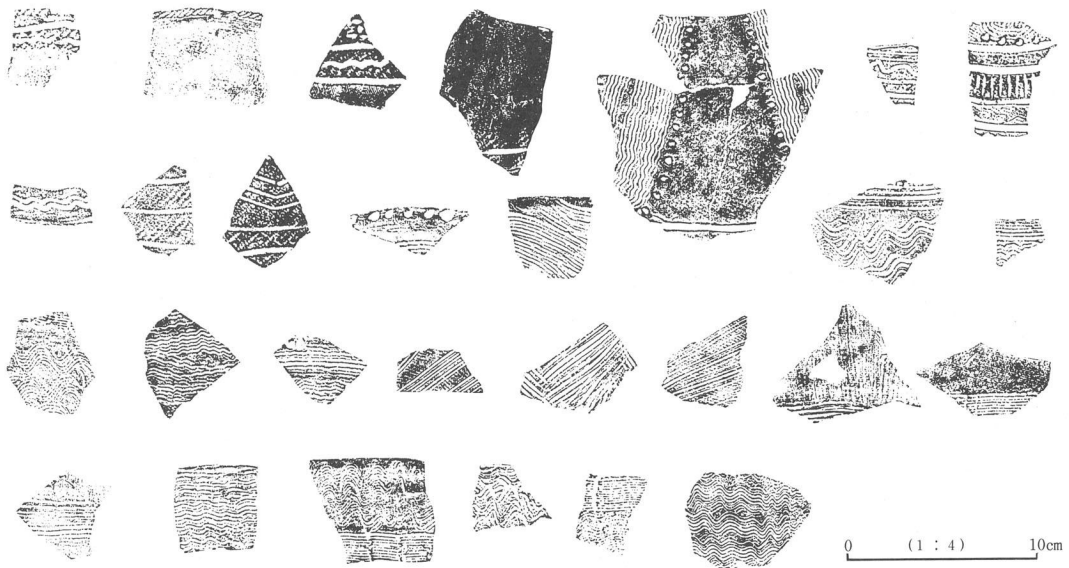
覆土は大きくみると7層に分けられた。4層は褐色土・明黄褐色土をブロック状に含み、人為的埋め土とみられる。第25図4・5などの古墳時代後期の土師器が出土した。5層・8層は壁が崩れたものであろう。6a層・6b層・6c層は明黄褐色をブロック状に含み、



第24図 M1号溝状遺構実測図



第25図 M1号溝状遺構出土土器実測図



第26図 M1号溝状遺構出土土器拓影図

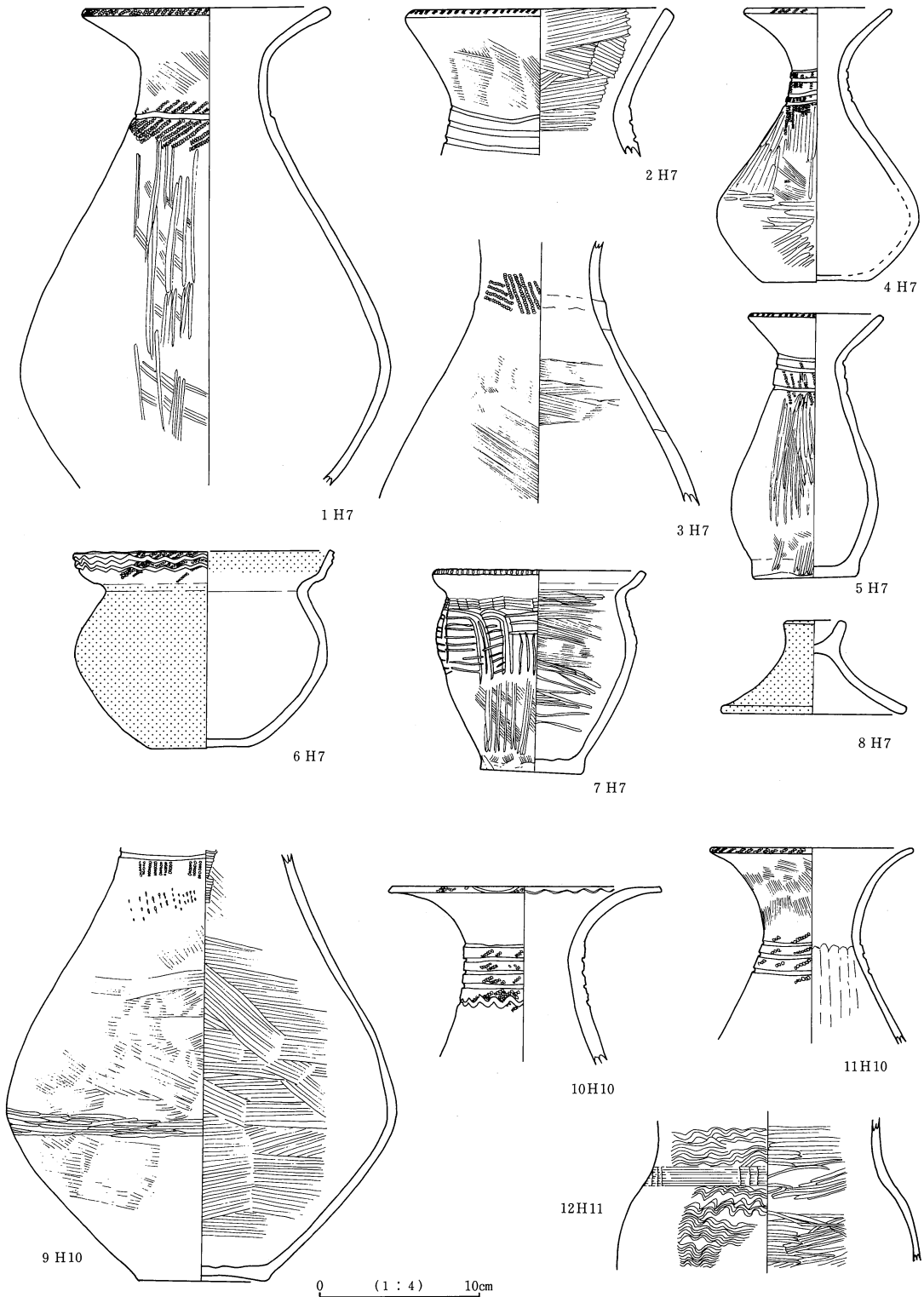
しかも、溝の西側一方にのみ堆積しており、溝の西側に土塁などの盛り土の存在が考えられないだろうか。9層は褐色の砂を含み、ひじょうに堅い。10層もまた褐色の砂質土であった。

6層から下部の土層内からは、弥生時代中期後半・後期の土器が多く出土した。

遺物の出土状況は、この溝状遺構は弥生時代に掘られ、古墳時代に若干埋められたと思われる。そして、本調査で明らかになった弥生時代の住居址群や周辺に存在する弥生時代中期後半・後期の住居址群との関連、および溝の断面形態からこの溝状遺構は環壕である可能性が高いといえる。

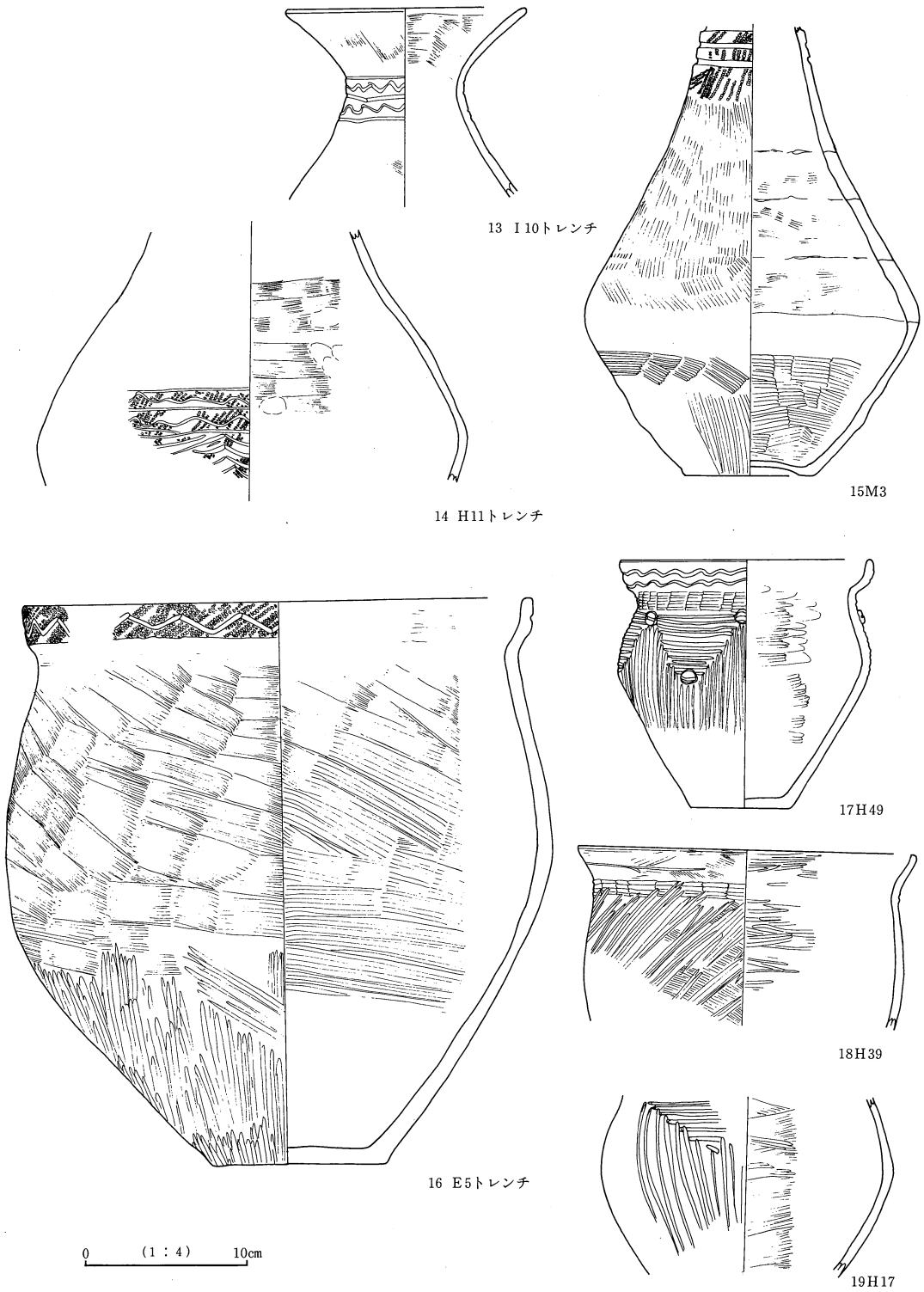
## 11 西一本柳遺跡 I 試掘調査出土遺物

各トレンチから住居址・土坑・掘立柱建物址・溝などの遺構プランが確認され、それらの覆土上部から多くの遺物が出土したので、第27～31図に掲載した。



第27图 H7·H10·H11出土土器实测图





13 I10トレンチ

14 H11トレンチ

15M3

17H49

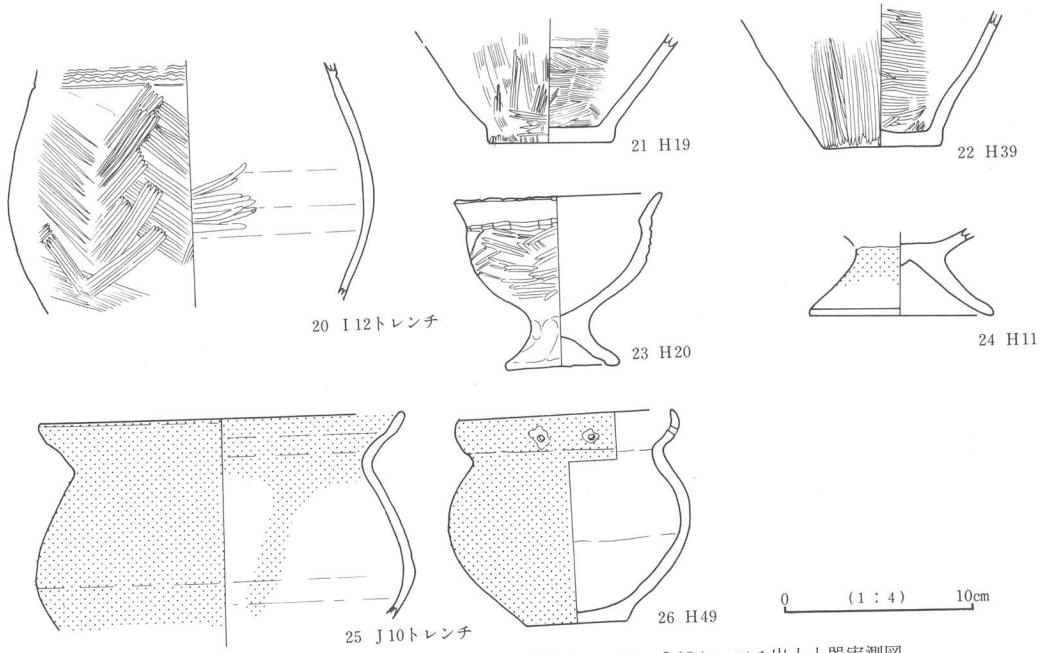
18H39

16 E5トレンチ

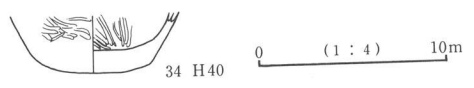
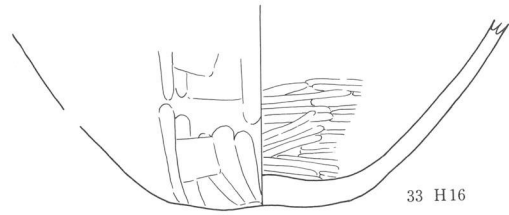
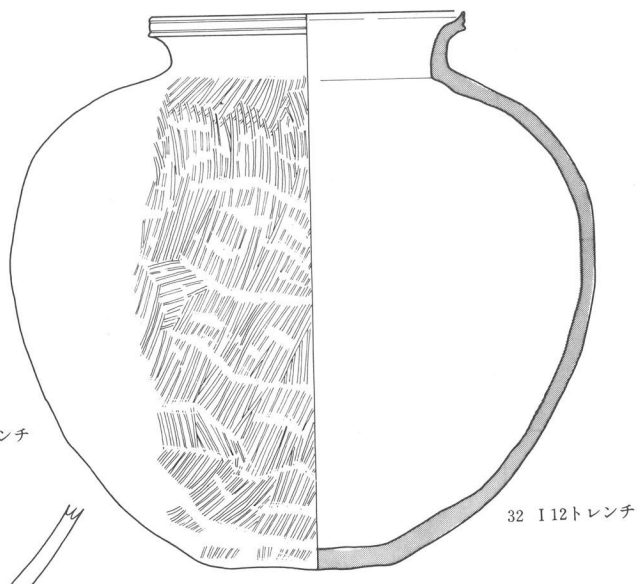
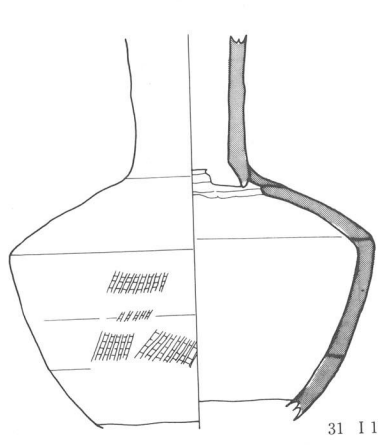
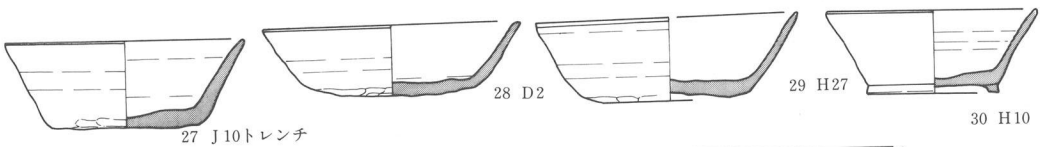
19H17

0 (1 : 4) 10cm

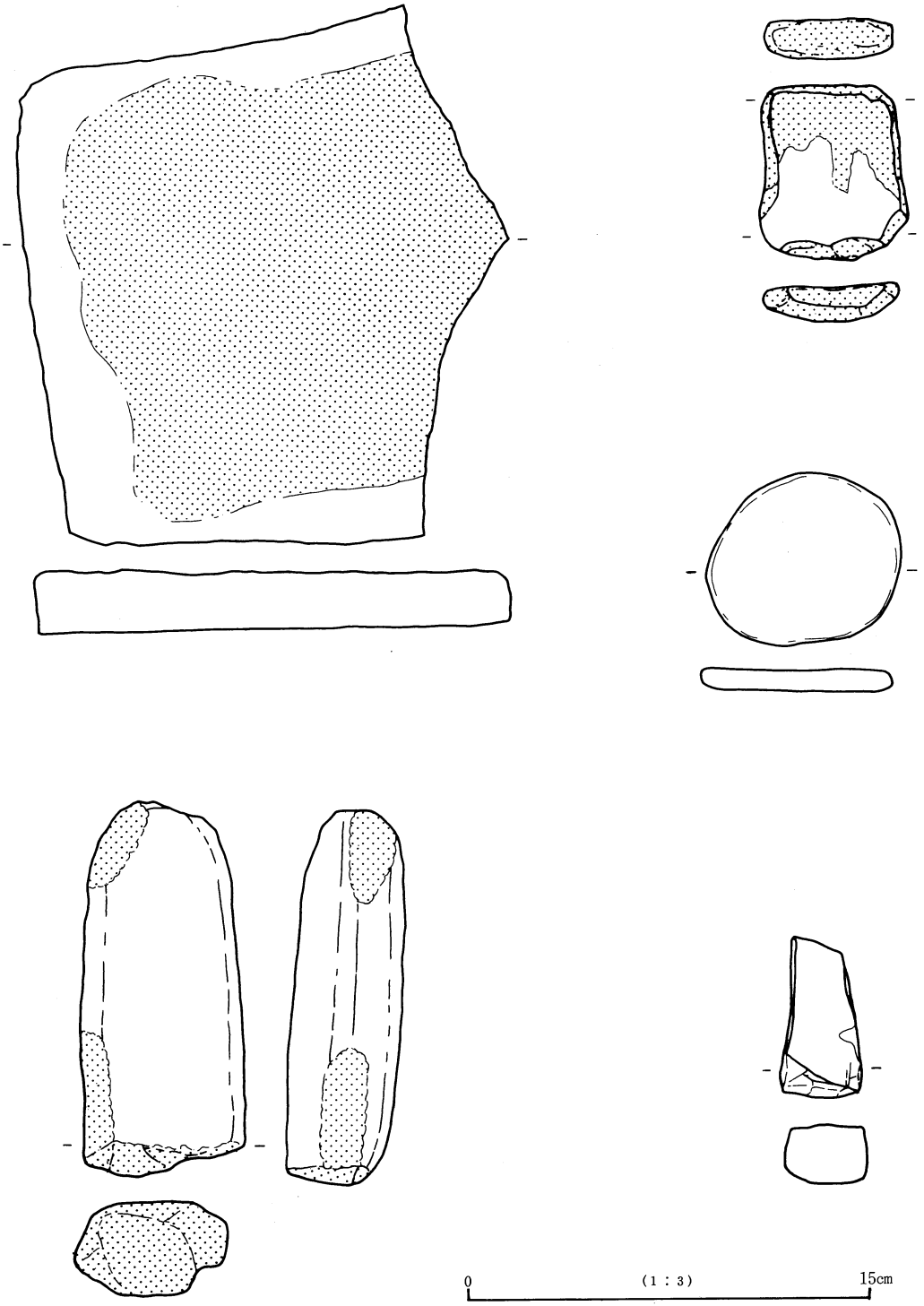
第28図 H11・H39・H49・M3・E5トレンチ・I10トレンチ出土土器実測



第29図 H11・H19・H20・H39・H49・J10トレンチ・I12トレンチ出土土器実測図



第30図 H10・H16・H27・H40・D2・J10トレンチ・I12トレンチ出土土器実測図



第31图 西一本柳遺跡 I 出土石器実測図



第32図 西一本柳遺跡 I (平成3年度・4年度) 調査全体図



西一本柳遺跡 I (バックネット部分) 調査全景 (南から)



H1号住居址全景 (南から)



H1号住居址カマド（南から）



H1号住居址カマド（北上から）



H 2 号住居址全景（南から）



H 2 号住居址カマド（南から）



H 3 号住居址全景（北から）



F 1 号掘立柱建物址（東から）





F 1 号掘立柱建物址（北から）



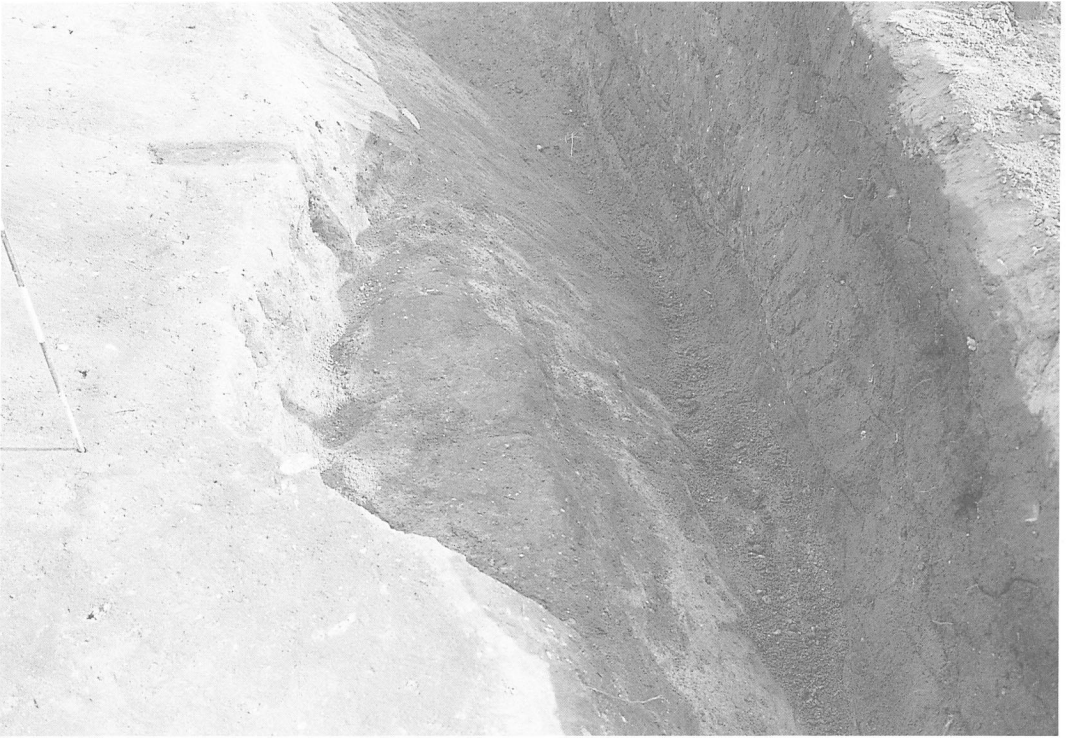
F 2 号掘立柱建物址・H 2 号住居址（南から）



西一本柳遺跡 I (部室・器具庫) 調査全景 (北から)



H 4 号住居址全景（北から）



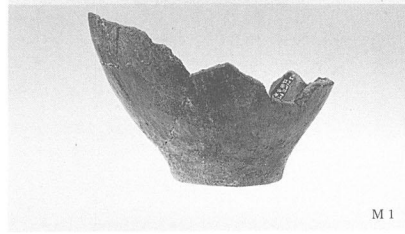
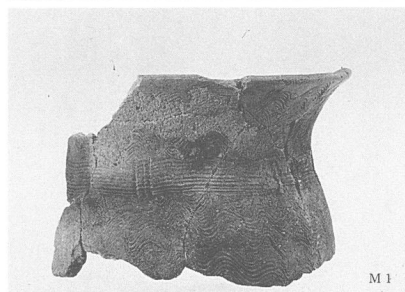
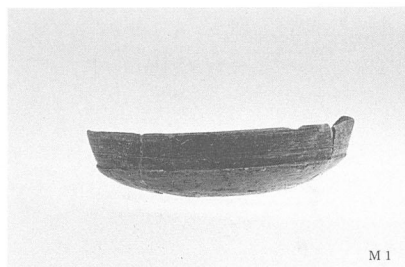
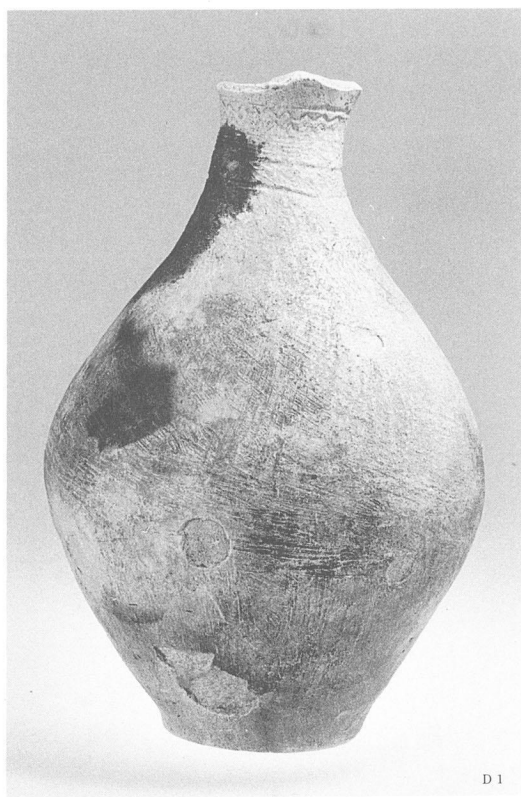
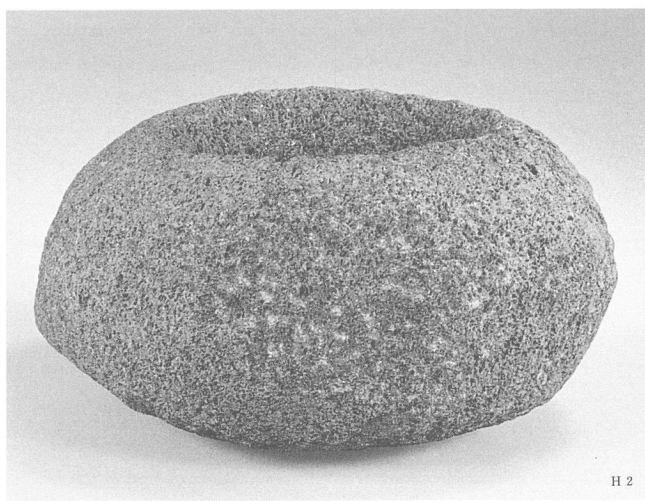
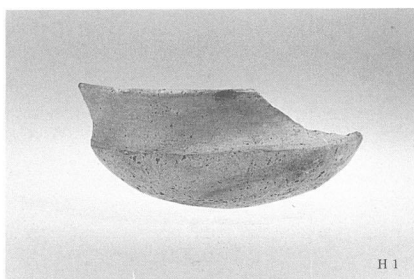
H 5 号住居址全景（北から）

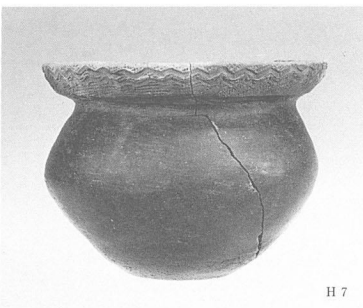
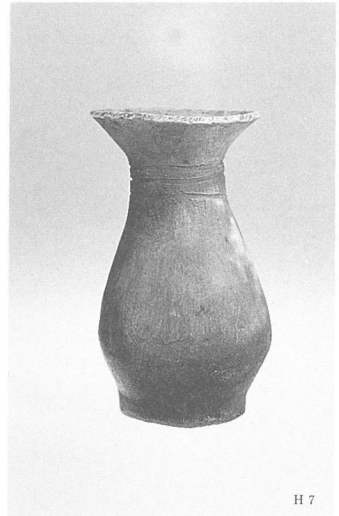
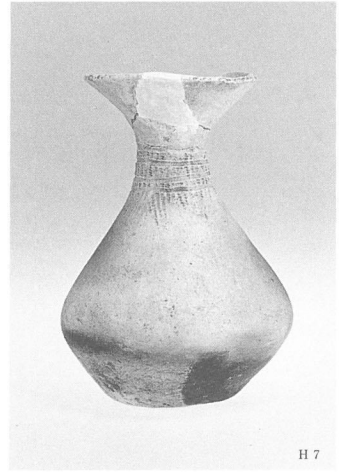
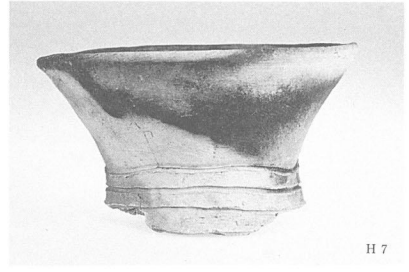


M1号溝状遺構全景（北から）



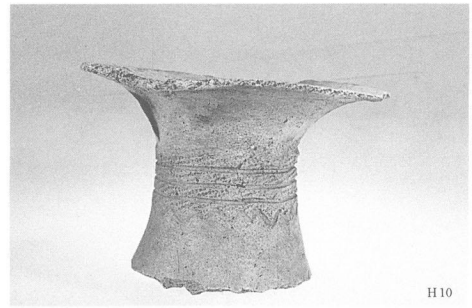
M1号溝状遺構土層の堆積状況（北から）



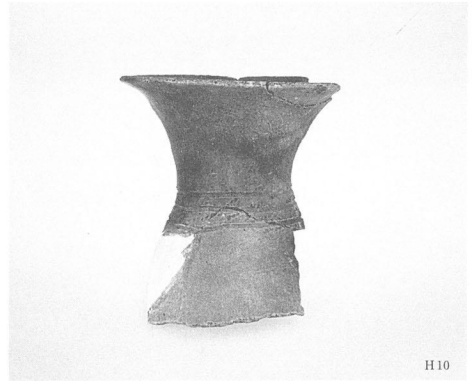




H10



H10



H10



H49



H20



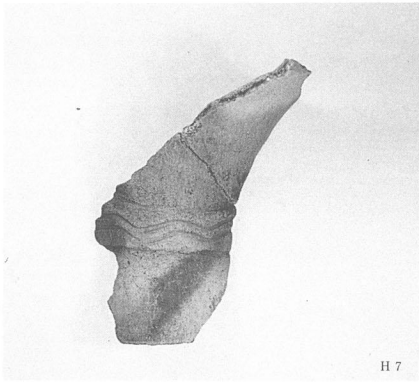
M3



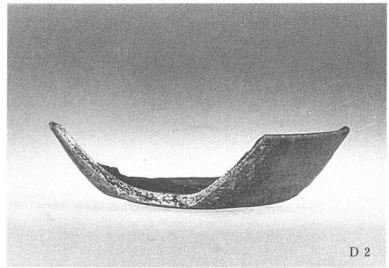
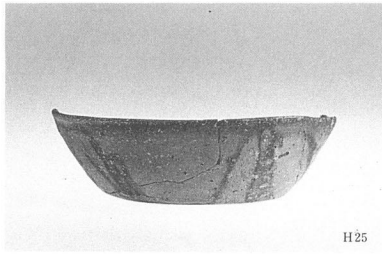
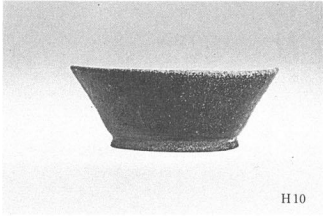
H49

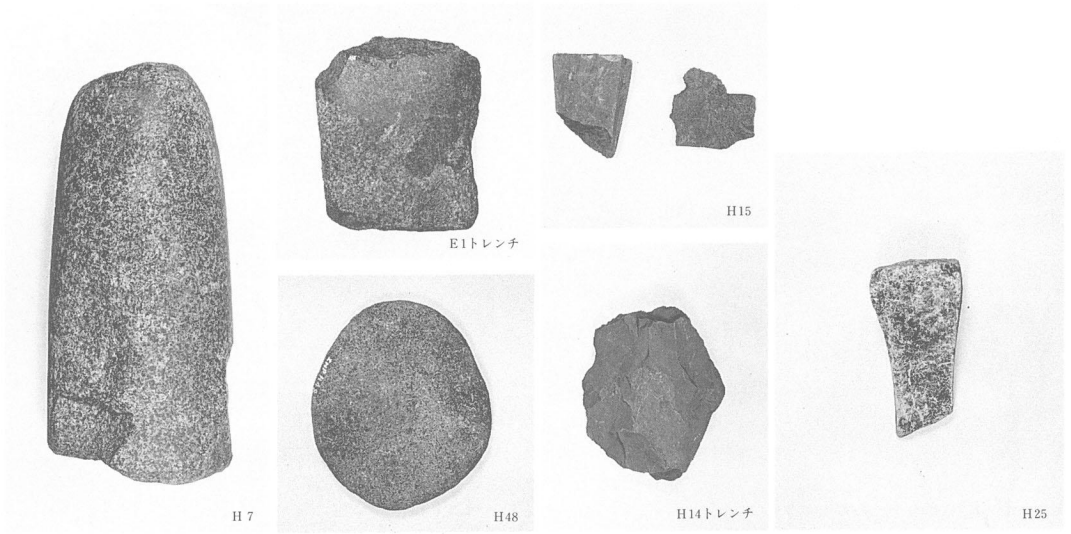
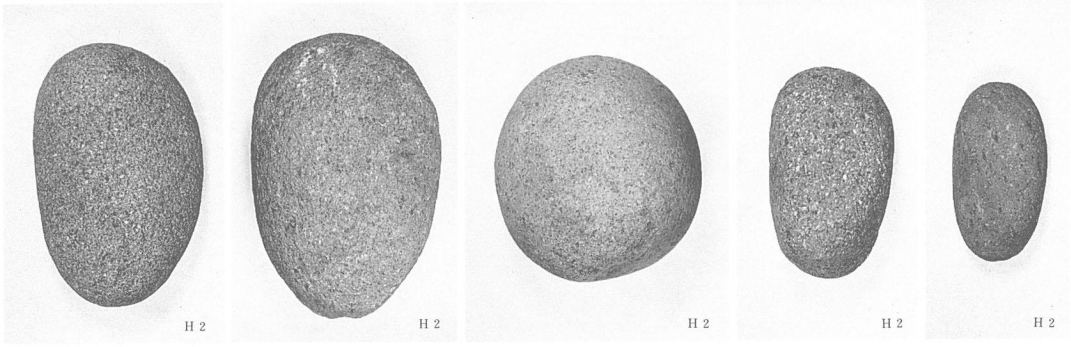


I10トレンチ









佐久市埋蔵文化財調査報告書	第1集	『金井城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第2集	『市内遺跡発掘調査報告書1990』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第3集	『石附窯址群III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第4集	『大ふけ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第5集	『立科F遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第6集	『上曾根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第7集	『三貫畑遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第8集	『瀧の下遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第9集	『国道141号線関係遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第10集	『聖原遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第11集	『赤座垣外遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第12集	『若宮遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第13集	『上高山遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第14集	『栗毛坂遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第15集	『野馬久保遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第16集	『石並城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第17集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月)
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第18集	『西曾根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第19集	『上芝宮遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第20集	『下聖端遺跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第21集	『金井城跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第22集	『市内遺跡発掘調査報告書1991』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第23集	『南上中原・南下中原遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第24集	『上聖端遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第25集	『上久保田向IV』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第26集	『藤塚古墳群・藤塚II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第27集	『上久保田向III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第28集	『曾根新城V』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第29集	『山法師遺跡B、筒村遺跡B』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第30集	『市内遺跡発掘調査報告書1992』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第31集	『山法師遺跡A、筒村遺跡A』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第32集	『東ノ割遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書	第33集	『聖原遺跡VII、下曾根遺跡I、前藤部遺跡I』

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書第34集

西一本柳遺跡 I 調査報告書

1994年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 ㈱佐久印刷所

---